

廬山天台講寺は淨華院の南にあり、宗旨〔天台、律、法相、淨土〕兼学なり。開基は慈惠大師にして、与願金剛院と号し、中興は住心上人なり。一日化人来つてわれは唐の惠遠法師なりとて、廬山の二字を書し住心和尚に与ふ、故に廬山寺と改む。本尊は元三大師自作の像なり、南の壇上には薬師仏を安ず。〔聖徳太子の作なり、世に小屋の薬師と称す〕北の壇上には聖観音を安ず。〔伝教大師の作なり。世に船来迎観音と称す〕当寺の什物に法然上人自筆の選択集あり、又親鸞上人自筆の四句の文あり。〔是六角堂觀世音より授与し給ふ四句の偈文なり〕